

2012(仏暦2555)年4月号(第75号)

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行  
浄土真宗本願寺派  
万行寺 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460



## ■住職法話

続・浄土真宗の「<sup>もんと</sup>門徒」とは

## ■仏事のイロハ

真宗では精<sup>しょうりようだな</sup>霊棚は用いない!

## ■本願寺の本

「浄土真宗<sup>ひつげい</sup>必携 み教えと歩む」

## ■お知らせ、編集後記

## Photo

スイセンの花が咲いています。品<sup>ひん</sup>があり、私も好きな花です。

万行寺の先代が、越前に旅行に行った際に株を持ち帰り植えたものが増えたと聞いています。大切にしたいと思います。

# 住職 法話

## 続・浄土真宗の「門徒」とは

開教を志し、佐久市へ寺の拠点（きよてん）を移させていただいて、今年で五年の節目を迎えます。なかなか、現実には本当に厳しいというのが実情です。

そんな厳しい中でも、新たに万行寺と縁の出来た「門徒」もおられます。それは、多くは県外から引越してきて、「実家が浄土真宗だから」とか、「代々、浄土真宗だから」という理由の方がほとんどです。引越越しと共に、お仏壇も遷座（せんざ）（移すこと）され、命日などのご縁には参拝に行かせていただいています。

ところで、法事などで各地

からご親戚など多くの方が集まると、「私は、〇〇寺の門徒です」という言い方をよくされます。同じ浄土真宗のお寺の門徒ということなのでしょう。

しかし、前号の法話でも、この「門徒」についてふれましたが、辞典によると「同じ門流に属して信仰を共にする人びと」であり、親鸞さまは「他力念仏を喜ぶ人びと」という意味で使われています。つまり、各寺の門徒ではなく、正確には「私は、〇〇寺に属する浄土真宗の門徒です」という言い方が合っているのでしょうか。

また、所属するお寺のこと

を、他宗にならって「菩提寺」と言われる方もおられますが、私たち浄土真宗はあくまで「所属寺」と言います。

江戸時代に始まった寺請制度によって、寺と檀家という強いつながりが作られ、制度はなくなっても今でも寺組織で続いています。このつながりにより寺を維持していく仕組みが出来ています。浄土真宗の寺も檀家とは言わなくても、この仕組みによって寺を維持しているのが一般です。

こうした、各寺とのつながりがどうしても表になり、同じ浄土真宗の教えを仰ぐ門徒という意識が薄れてしまうのでしょうか。逆に、寺の住職の

中にも、「私の寺の門徒」といった意識が強くなっている気がします。

全国各地から引越しなどをされ、新しく万行寺との縁をいただくことが増えてくると、私の中にもあった「私の寺の門徒」という意識を省みて、浄土真宗のご門徒をお預かりしているんだなど自然と感じられるようになりました。前号と重なりますが、親鸞さまの言われた『御同行、御同行』のお心を深く味わうところです。



# ハロハの伊口ハ

真宗では精霊棚は用いない！

「お盆にはどのようなお飾りをすればよいのですか」と、尋ねられることがありません。これは、お盆独特の飾り方があるのではないかと思われているからでしょう。

確かに一部の風習では、精霊棚

を作つて、お膳を用意するところがあるようですが、浄土真宗ではそういったことはいたしません。一般の法要と同じように、菓子、果物といった供物を仏前にお供えし、前卓には打敷をかければよろしいでしょう。  
ちなみに「精霊棚」というのは、先祖の霊を迎えてもてなすために用意する棚で、

位牌を並べ、その前に精進料理のお膳や迎え団子、その他盛りだくさんの果物、野菜を供えるものです。また、ナスとキュウリにおがらをさして、牛と馬に見立てます。これらは先祖の霊が乗るための乗物だそうです。

この精霊棚の前で読経が行われ、これがいわゆる「棚経」と呼ばれているものです。

つまり、ご先祖の霊を丁寧に重にもてなし、お慰めして追善回向しようとするのが、精霊棚のならわしです。

しかし、こうした風習はお盆本来の由来から言えば少し筋違いではないかと思えます。

そもそもお盆とは、仏弟子の目連尊者が餓鬼道に墜ちた亡き母を救おうとして、その

母に食物を与えるのですが救われず、お釈迦さまの導きで衆僧に供養して初めて救われた（その日が七月十五日）という故事から起こった行事です。すなわち、亡き母や特定の先祖に供物を捧げるといふのではなく、自らが深く仏法に帰依して、限りなき仏さまのおはたらきを仰いでゆく—ということでしょう。言い換えれば、ご先祖のご恩に報いる道は私自身がお念仏を慶ぶ身となることです。ご先祖への報恩の思いから仏法を聞かせていただき、阿弥陀如来のお力によつて救われて

いく身の幸せを慶ぶのがお盆です。

ですから、精霊棚を設けるのではなく、ご本尊の如来さまを心から仰ぎ、お供え等を行つて下さい。

なお、「棚経」という言い方もしません。

## ポイント

●精霊棚は設けない。

●先祖の「霊」に供物をささげるのではなく、如来さまに供える。

●棚経という言い方もしない。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より」



## ～本願寺の本～

### 『浄土真宗 <sup>ひつげい</sup> 必携 み教えと歩む』

本願寺出版社 刊 定価 525円(税込)

本書は「み教え」「歴史<sup>しゅうもん</sup>」「宗門」という大きな区分で、日々の暮らしの中でみ教えに親しんでいたためだけの事柄をやさしくまとめてあります。浄土真宗本願寺派の門信徒の方がたに、これだけは知っておいていただきたいとの願いから編集された門信徒<sup>ひつげい</sup>必携の書。

(本願寺出版社HPより)

昔から赤い表紙で親しまれてきた「浄土真宗 <sup>ひつげい</sup> 必携」が、青い表紙になり内容も新たになりました。紹介文のように、浄土真宗のことがわかりやすくまとまっています。



## 万行寺本堂建立基金について

現在、住居の仏間を万行寺の仮本堂にしていますが、将来は隣接して本堂建立を願っています。しかし、それには多額の資金が必要になり、特に社会事情が厳しい中でもあり、予算や具体的な構想まで進んでいるわけではありません。そこで、2年前に「万行寺本堂建立基金」を立ち上げて、将来の本堂建立のための資金の積み立てをお願いしています。念仏の道場（本堂）建立のために、何とぞ宜しくお願い申し上げます。詳細は、万行寺まで問い合わせ下さい。

## 編集後記

前号に続き、浄土真宗の門徒についてふれました。◆後の、本願寺第八代の蓮如<sup>れんによ</sup>さまは、この門徒について数多く語られ、門徒のたしなみを確立された方でもありました。親鸞<sup>しんらん</sup>さま、蓮如<sup>れんによ</sup>さま、そして現代へと、時代背景で門徒の意味は違えども、あらためて気づかされることばかりです。◆ところで、我が家の娘も五ヶ月になりました。暖かくなり外への散歩も始めています。首もすわり日に日に成長が感じられます。おかげさまの一言につきます。

